



～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

新年あけましておめでとうございます 本年もよろしくお願い致します



【感染症だより】

～年末の感染症流行状況について～

今シーズンは季節性インフルエンザが全国的にほとんど検出されていません。年末に全国で感染性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナが増加しました。しかし、感染性胃腸炎が多かったと言っても過去5年間の平均よりも低い水準となっています。

～新型コロナウイルス・ワクチンについて～

すでにNHK ニュースでご覧になった方もいらっしゃると思いますが、北里大学の研究グループがオミクロン株に対するワクチン効果について研究結果を発表しました。国内でワクチンを2回接種した人の抗体の効果をデルタ株とオミクロン株と比較したところ、デルタ株に対する中和抗体の値よりも平均で約70-80%低下している事が判りました。コロナウイルスは概ね2週間に1回変異していますから、ワクチン効果が下がることは予測の範囲内と言えるでしょう。とはいえ、WHO（世界保健機関）でオミクロン株はこれまでの変異株より軽症の証拠が多いと発表されています。さらに、南アフリカの国立伝染病研究所から、オミクロン株は他の株よりも入院のリスクが80%低い、英国でもオミクロン株はデルタ株よりも入院のリスクが低いと発表されています。従来同様、流行の波が収まる毎に弱毒化しているようです。つまり、重症度が下がっているということで、不安要素が減ったということですね。

～新型コロナワクチン副反応について～

厚労省から12月24日に発表されたワクチン副反応報告では、因果関係は不明ですが累計1431人の方が死亡（10代の方が5名）、重篤副反応は6165名（内、10代が341人）でした。若い人に多い心筋炎・心膜炎関連の副反応はファイザー製、モデルナ製を合わせると633例が報告されています。新型コロナウィルスに感染してもほぼ重篤化しない小児では、ワクチン接種について慎重に判断したいところです。これらの副反応報告は厚労省のホームページからどなたでもご覧になれます。

表：12月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

文責：清水マリ子

	感染症	患者数
1	胃腸炎(10代以下)	116
2	溶連菌	113
3	手足口病	18
4	ヘルパンギーナ	12
5	突発性発疹	8
6	伝染性膿痂疹(とびひ)	3
7	おたふくかぜ	2
8	RSウイルス	1
8	水ぼうそう	1

※

コロナ流行中、当院では感染症検査は防護服着用し必要最低限実施しています。

あんず通信バックパ-は
クリニックホームページからご覧になれます。
<https://ssn-clinic.net/>

～あんずからのお知らせとお願い～

★**空き状況**をWebで確認出来るようになっていきます。しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話で構いませんので当日8：30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

